
厨二病少女物語 in,めだかボックス

箱眼鏡

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

厨二病少女物語 i n めだかボックス

【Nコード】

N 6 0 7 8 Z

【作者名】

箱眼鏡

【あらすじ】

とある厨二病少女が神に出会い（？）
スキルを貰って原作ブレイクor傍観するお話！

ぶろろーぐ 厨二少女、呼び出す。(前書き)

連載、始めました。

ぶろろーぐ 厨二少女、呼び出す。

やあやあやあ！ はじめまして！ M i s s ・厨二こと！

『 ちゃんですっ

…え？ 名前が表示されてない？

………気にすんな。気にしたら負け！ok？

で、本題に入るが…なんか私、真っ白いところにいるんだよねえ？

うん…何でこうなったんだろう。

とりあえず、回想！

そう、それは私がとある怪しい古本屋『BOOK OF』で…

『キツネザルでも出来る！正しい神様の呼び方（初版）』

を買った事から始まった…買う時 可哀想な人を見る目で見られたが。

でだ、家に帰ってその本を見たんだが…

自宅

「よし、メガネ装備完了！ 熟読するぜー！」

とか言って本を読み始めたんだよ

まあ、当然の如く『神様の正しい呼び方』があつて
試にやったんだよね、手順通りに。

「えー…つとお？」

『付属の魔方陣の描かれている蠟燭を六角形にならべ、その中心に
立ち、

「いでよ！」と言ってから「くあwせd r f t g yふじこ1p」を
囃まずに10回唱える』

…くつ…！ やってやるつじゃねエか…！」

で、やったんだよね。

そしたらさ…

「いでよ！」

[illegible]

…出来たんだよ。出来ちゃったんだよ。すごくね？

んで、魔方阵が光ったと思ったらー、ここに居たわけさ。

「お前が俺を呼んだんだろ？」

とか言ってる奴いるし……

⋮
Σ?
.

そう思い、後ろを見たら

ものすごい美形な奴がいた。

畜生っ！

「誰だツツ！！！！！」

「神だツツ！！！！！」

「知らんがな！！　って神！！！？」

「そうだよ！！　1時間位前からいたよ！

お前がいつまでたつても現実逃避してるからかなり寂しかったよ
！」

「知らん。どうでもいい」

「どうでも……」

ていうか神イケメンだなオイ……
まあいいか。私の願いが先だっ！

「で？　神（笑）さんよお……ていうか何時まで落ち込んでんだよ。
鬱陶しいわ」

「誰のせいだ……で……本題に入るけど、お前の願いは転生だよな？
っ！か此処に生きたまま来る奴って中々いねえよ」

「オイ、ちょっと待てっ！！」

「ん？何だよ」

「今、お前……生きたまま……つたよな？」

「…事はアレか、ここに来る奴は大抵死んでんのか？」

「……………まあ…な…？」

「今の間は何だあ？ オイコラ神（笑）さんよ」

「さーて！ さっさとやるぞー！」

汗だらっただらやんけ…

「…まさかとは思うけどさ、その死んだ奴って…お前のミスで死んだりとかか？」

「！…！」

おお、ビクッてしたっ

「…ふうーん、へえーえ？ そつかあ、そうなんだあ？ w」

「う、うるさい！ 俺だって、俺だってミスくらいするっつーの！」

ツンデレ…？ では無いな。確実に。

「で、此処に来た奴は身元確認をしなきゃなんないから…」

「間違って死んだとかそういう事で？」

そう！ 私は確信犯！

「グサッ…そうだよ…」

「自分で…」

「ゴホン、気を取り直して…名前は？ちなみに俺は菊だ」

「女子か。私は」
『な』

神が分厚い本を見始めた。重くねえの？

「……お、本人だな。OK OK
で、お前の願いは転せ 「違えよ」 は？」

「私の願いは… 「ちよつと待てよ！」 ンだよ駄神」

「駄神…じゃなくて！ お前の願いは転生のはずだろ！？」

「情報古いな… あんな？ 私はある時、気づいたんだよ」

「何に」

「『あれっ？ 転生しちゃったらいろんな世界行けなくね？』
…という事に。」

「はぁああああ？！」

「つー訳で、今の私の願いは

『あらゆる世界に行けるスキル』と『スキルを作るスキル』をくれ。」

「せこいーーーー！！！！」

「うるせえな！！私はあらゆる事を楽しみたいんだ！！いいだろ！！」

「うつうつ…俺ってさ、お前に呼び出されただろ？」

「お？なんだいきなり」

「俺達には決まりがあつて…」

『呼び出された神は 呼び出した者の願いを絶対叶えなければいけない』

…って言うのがある…から」

「叶えてくれんのか？」

「…まあ…でも、お前の願いって、全時空を行き来するって言う事なんだよ」

めんどくせえ言い回ししやがって。めんどくせえ奴だな。

「叶えられるかなあ… みたいな事か」

「うん…という事で、ちょっと大神様に相談してくるわ」

「…何か納得いかねーけど…いいよ」

「おう、ちよっと待っててく」… 『その必要はない』 …!!」

「んあ?」

誰だY: 美人さんキター… 何で神って美形多いの?
そんなこと思っていると、神（美人）さんが口を開いた

『
菊、テメエ何モタモタしてやがる。おお?』

「口悪っ!!」

ビックリだよ!! 何!? めっちゃ口悪い神さんキター!!
口悪過ぎて突っ込んだじゃったよ!! もう!

「す、すみません……」

「めっちゃビビってんじゃん、チキンハートだなーお前」

「う、うるせえっ」

『オイゴラ、テメエアタシの話聞いてたか? ん?』

「聞いてましたごめんなさい」

「弱いなお前…」

『！ お前がこの阿呆を呼び出した人間か』

「そうッス」

『ほーん…お前の願いはー…何だっけ？

あらゆる世界に行けるスキル…と、スキルを作るスキル…だったか？』

「え、何で知ってるんですか?!」

駄神ことお菊ちゃん（笑）が喋りだす。

『お菊ちゃん（笑）… テメエが持ってたのはコレの一個前のだ（笑）』

「お菊ちゃん!?!」

「お菊ちゃん、案外ドジっ子なんだな（笑）」

『で、お前』

「へあはい!?!」

いきなり呼ばれて変な返事しちゃったよ…

『お前の願い、叶えるからな』

一瞬の沈黙。そして…

「…はあっ！！？」

叫んだ。

だってビックリしちゃったんだもんっ

「ん？　なんだ嫌なのか？」

「物凄く嬉し過ぎて吐きそうです」

「ははは！　そうか！」

「ちょっと！！　大神様！？　いいんですか！？」

「いいつつってんだろ？　お菊ちゃん（笑）」

「そうだよ。お菊ちゃん（笑）」

「うゝ…もういいや…ハハッ…」

お菊ちゃん（笑）が落ち込み始めた。邪魔くせえな。

「つか、マジでいいんスカ？」

「いいんだよ別に。お前気に入ったし」

「よっしゃああああああああああああああっ！！！」

『落ち着け！？』

「うぁっ、スンマセン…つい」

『いや、いいんだがな…』

で、『あらゆる世界に行けるスキル』と『スキルを作るスキル』はもう使えるからな』

「「いつの間に！？」」

あ、お菊ちゃん復活した。はええな…神クオリティーがこの野郎

『企業秘密だ。…お、もうそろそろ時間だ。』

「あ、本当ですね」

「？ 時間が何だよ」

『ん？ お前を下に戻す時間』

「あ」

そーいや忘れてたな…

『会つのは最後になるかもしれないから、アタシの名前を教えてください。』

アタシの名前は紀樹だ』

「紀樹さん…okッス！ 覚えました」

『お菊ちゃん？ テメエはいいのかー？』

「あんまし言う事ないですし…」

「ンだよ冷たいなー、お菊ちゃん」

「お菊ちゃんはやめてくれっ…！」

「嫌です（笑）」

『じゃ、戻すぞー』

「ご愁傷様…」

「は？」

何？ ご愁傷様？

『えいつ』

パカッ

「あゝ？ パカッ…てうおおおおおっ…！？」

…その音がした瞬間、下にデケエ穴が開いた。

…上、天井…うわあ、物凄い無理矢理…

「ええー…と、何々…

「おはや〇ほー！」

うた　りか。地味にネタ使ってくるんじゃないやねえよ駄神共が。

「ういーっす！　生きてるかー？」

生きてるわ！！　もう突っ込むのやめとこう。先に進まねえ

「ははは、言い忘れてた事があったから手紙で教えるぞ。

まず、スキルの事。

スキルは現実では使えないからな。

あらゆる世界に行けるスキルの名前は

《ブックワールド》　っつー奴に決定したから。

ブックワールドはその世界に行く時に

「ブックワールド！」　って言えば行けるから

でもう一つの方は《スキルメーカー》。まんまだな（笑）

あと、原作はぶち壊しても、傍観でも何でもいい。

そっちの世界の漫画にや影響しないから。

他になんかあったっけ…？　無理だ思い出せない。

まあこれでいいか。

以上。 from 紀樹

…………ぐつだぐだな！！！」

ぐだぐだ…ぐだぐだ過ぎだよ！？

馬鹿じゃねえの！？ 他になんかあったけ…？ て！！
あきらめんなよ！！！！もう！！

「まあいいや」

どこの世界に行くかはもう決まってるだよねー
やっぱ最初は

「めだかボックスだろ！！うあああ鷗くん可愛い可愛い…！！
という事で！レッツ！！ブックワールド！！」

そして私の原作ブレイクが始まった。

原作傍観するかもしれないけどね。

ぶろろーぐ 厨二少女、呼び出す。(後書き)

はい、無理矢理です。

詰め込みすぎました。切り方が分かりません。

アドバイスください…

頑張って連載します。それでは b y 箱眼鏡

厨二主人公設定だツ！！

現実

名前：不明

性別：女

年齢：13

身長：162.8cm

体重：ご「言わせるかつ！！」^p^

一人称：（基本）私（たまに）あたし・俺・僕

誕生日：不明

性格：言葉で表せない性格、厨二病

容姿：普通人

in、めだかボックス（容姿はスキルで変えている）

名前：河那カワナ ツクモ 九十九

性別：女

年齢：黒神めだかと同じ年

身長：165.5cm

体重：不明

一人称：（基本）私（たまに）あたし・俺・僕

誕生日：不明

性格：言葉で表せない性格、厨二病

容姿：肩くらいのショートカットで天パ

カチューシャ・黒をいつもつけている

神さん設定…

名前：菊（お菊ちゃん）

性別：男

年齢：不明

身長：169・5cm

体重：不明

一人称：俺

誕生日：4 / 4

性格：「さあ？ しらん「チキンだ」違う!!」

容姿：美形・九十九さん曰く、可愛くもあり格好良くもある

名前：紀樹

性別：女

年齢：不明

身長：175・8cm

体重：不明

一人称：アタシ

誕生日：12/25

性格：適当

容姿：九十九さん曰く綺麗

以上！

厨二主人公設定だッ！！（後書き）

設定です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6078z/>

厨二病少女物語 in,めだかボックス

2011年12月20日12時51分発行